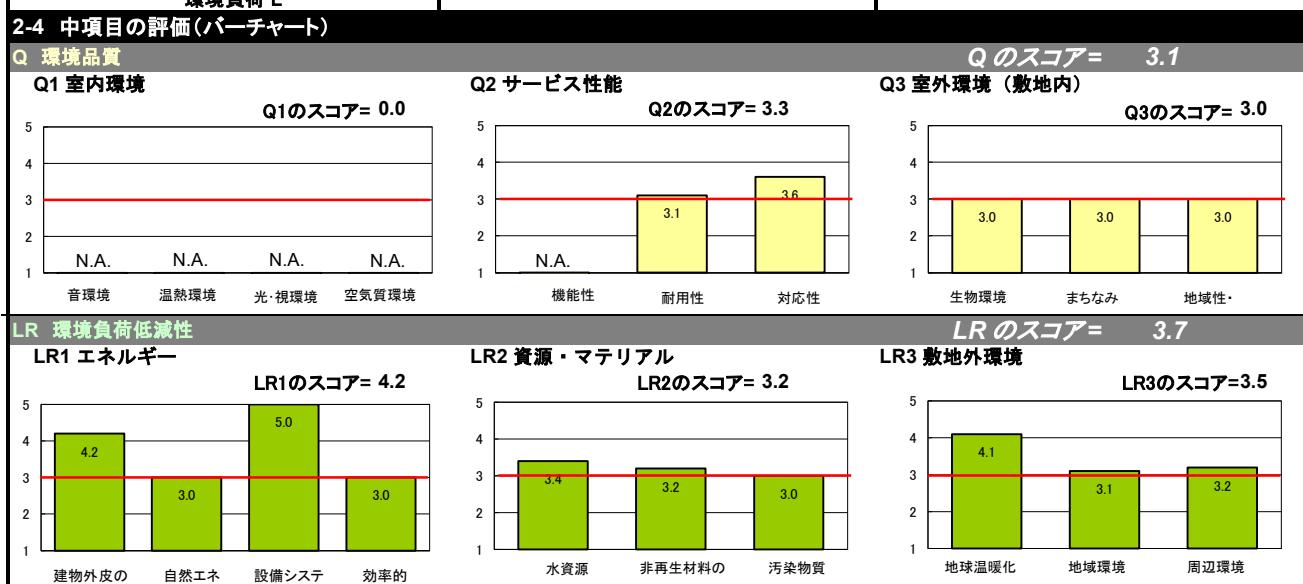
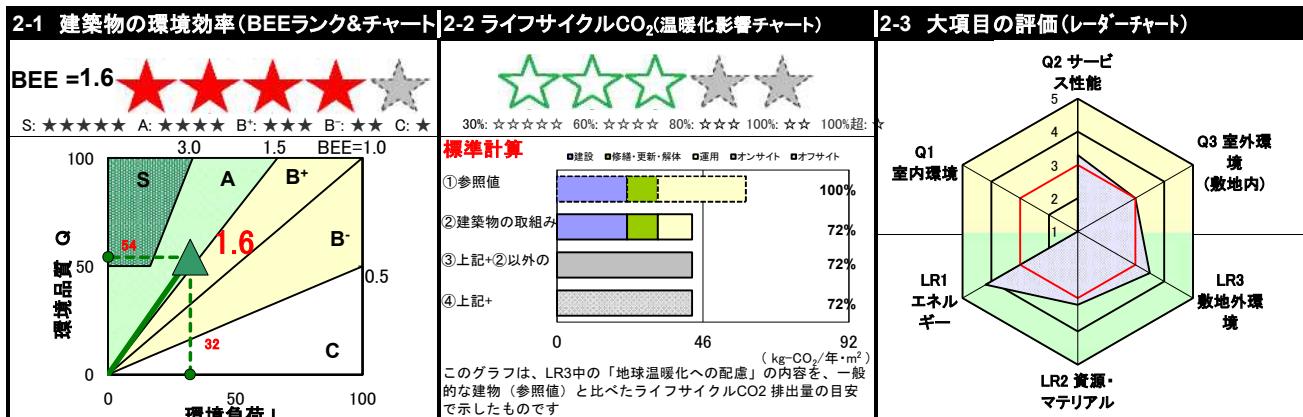


CASBEE®-建築(新築) ■ 評価結果

■ 使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	三井不動産ロジスティクスパーク入	階数	地上4F
建設地	埼玉県入間市	構造	RC造
用途地域	地域指定なし	平均居住人員	200 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	事務所、工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2026年1月 予定	評価の実施日	2025年11月27日
敷地面積	38,404 m ²	作成者	東急建設株式会社一級建築士
建築面積	22,917 m ²	確認日	2025年11月27日
延床面積	86,809 m ²	確認者	東急建設株式会社一級建築士事務所



3 設計上の配慮事項		
総合		その他
CO ₂ 排出率の減少のために努力しています。		事務所用途は延床面積の2割未満であるため、全体を工場用途として評価しています。工場用途の場合、Q1~Q2-1に関わる項目は事務所部分を評価対象外とします。
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境 (敷地内)
特になし。	耐用年数が長い仕様を使用することで、建物の長寿命化を図ります。	緑地スペースを確保することで、豊かな環境を図ります。
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
CO ₂ 排出率を減少することで、建物の低炭素化を図ります。	節水便器を使用することで、エコの対策を図ります。	駐輪・駐車のスペースを確保することで、周辺道路の渋滞緩和を図ります。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用・改修・解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■評価対象のライフケイルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-建築(新築)2016年版
三井不動産ロジスティクスパーク入力(MFLP入力)

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2016年版

欄に数値またはコメントを記入

■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

スコアシート 実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄				評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
配慮項目	実施設計段階									
Q 建築物の環境品質										
Q1 室内環境										3.1
1 音環境						-	-	-	-	-
1.1 室内騒音レベル						-	-	-	-	-
1.2 遮音						-	-	-	-	-
1 開口部遮音性能						-	-	-	-	-
2 界壁遮音性能						-	-	-	-	-
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)						-	-	-	-	-
4 界床遮音性能(重量衝撃源)						-	-	-	-	-
1.3 吸音						-	-	-	-	-
2 溫熱環境						-	-	-	-	-
2.1 室温制御						-	-	-	-	-
1 室温						-	-	-	-	-
2 外皮性能						-	-	-	-	-
3 ゾーン別制御性						-	-	-	-	-
2.2 湿度制御						-	-	-	-	-
2.3 空調方式						-	-	-	-	-
3 光・視環境						-	-	-	-	-
3.1 昼光利用						-	-	-	-	-
1 昼光率						-	-	-	-	-
2 方位別開口						-	-	-	-	-
3 昼光利用設備						-	-	-	-	-
3.2 グレア対策						-	-	-	-	-
1 昼光制御						-	-	-	-	-
3.3 照度						-	-	-	-	-
3.4 照明制御						-	-	-	-	-
4 空気質環境						-	-	-	-	-
4.1 発生源対策						-	-	-	-	-
1 化学汚染物質						-	-	-	-	-
4.2 換気						-	-	-	-	-
1 換気量						-	-	-	-	-
2 自然換気性能						-	-	-	-	-
3 取り入れ外気への配慮						-	-	-	-	-
4.3 運用管理						-	-	-	-	-
1 CO ₂ の監視						-	-	-	-	-
2 喫煙の制御						-	-	-	-	-
Q2 サービス性能						-	0.43	-	-	3.3
1 機能性						-	-	-	-	-
1.1 機能性・使いやすさ						-	-	-	-	-
1 広さ・収納性						-	-	-	-	-
2 高度情報通信設備対応						-	-	-	-	-
3 バリアフリー計画						-	-	-	-	-
1.2 心理性・快適性						-	-	-	-	-
1 広さ感・景観						-	-	-	-	-
2 リフレッシュスペース						-	-	-	-	-
3 内装計画						-	-	-	-	-
1.3 維持管理						-	-	-	-	-
1 維持管理に配慮した設計						-	-	-	-	-
2 維持管理用機能の確保						-	-	-	-	-
2 耐用性・信頼性						3.1	0.50	-	-	3.1
2.1 耐震・免震・制震・制振						3.0	0.50	-	-	-
1 耐震性(建物のこわれにくさ)						3.0	0.80	-	-	-
2 免震・制震・制振性能						3.0	0.20	-	-	-
2.2 部品・部材の耐用年数						3.6	0.30	-	-	-
1 転体材料の耐用年数						3.0	0.20	-	-	-
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔						3.0	0.20	-	-	-
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔						5.0	0.10	-	-	-
4 空調換気ダクトの更新必要間隔						3.0	0.10	-	-	-
5 空調・給排水配管の更新必要間隔						5.0	0.20	-	-	-
6 主要設備機器の更新必要間隔						3.0	0.20	-	-	-
2.4 信頼性						3.0	0.20	-	-	-
1 空調・換気設備						1.0	0.20	-	-	-
2 給排水・衛生設備						3.0	0.20	-	-	-
3 電気設備						3.0	0.20	-	-	-
4 機械・配管支持方法						4.0	0.20	-	-	-
5 通信・情報設備						4.0	0.20	-	-	-

耐用年数20年以上の仕上げ材を使用。

2種類以上に等級Bを使用、Eは不使用。

耐震クラスA。

多様な通信設備を使用。

3 対応性・更新性	3.1 空間のゆとり	階高3.9m以上。 壁長さ比率0.1以下。	3.6	0.50	-	-	3.6	
	1 階高のゆとり		5.0	0.30	-	-		
	2 空間の形状・自由さ		5.0	0.60	-	-		
	3.2 荷重のゆとり		3.0	0.40	-	-		
	3.3 設備の更新性		3.0	0.30	-	-		
	1 空調配管の更新性		3.0	0.40	-	-		
	2 給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-		
Q3 室外環境(敷地内)	3 電気配線の更新性		3.0	0.20	-	-		
	4 通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-		
	5 設備機器の更新性		3.0	0.10	-	-		
	6 バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-		
	1 生物環境の保全と創出		3.0	0.50	-	-	3.0	
	2 まちなみ・景観への配慮		3.0	0.40	-	-	3.0	
	3 地域性・アメニティへの配慮		3.0	0.30	-	-	3.0	
LR 建築物の環境負荷低減性	3.1 地域性への配慮、快適性の向上		3.0	0.50	-	-		
	3.2 敷地内温熱環境の向上		3.0	0.50	-	-		
	LR1 エネルギー		-	-	-	-	3.7	
	1 建物外皮の熱負荷抑制		4.2	0.20	-	-	4.2	
	2 自然エネルギー利用		3.0	0.10	-	-	3.0	
	3 設備システムの高効率化		5.0	0.50	-	-	5.0	
	4 効率的運用		3.0	0.20	-	-	3.0	
LR2 資源・マテリアル	集合住宅以外の評価		3.0	1.00	-	-		
	4.1 モニタリング		3.0	0.50	-	-		
	4.2 運用管理体制		3.0	0.50	-	-		
	集合住宅の評価		-	-	-	-		
	4.1 モニタリング		-	-	-	-		
	4.2 運用管理体制		-	-	-	-		
	1 水資源保護		-	0.30	-	-	3.2	
1.1 節水	主要水栓の過半に自動水栓及び節水便器を使用。		3.4	0.20	-	-	3.4	
	1.2 雨水利用・雑排水等の利用		4.0	0.40	-	-		
	1 雨水利用システム導入の有無		3.0	0.60	-	-		
	2 雜排水等利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-		
	2 非再生性資源の使用量削減		3.0	0.30	-	-		
	2.1 材料使用量の削減		3.0	0.10	-	-		
	2.2 既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.20	-	-		
2.3 車体材料におけるリサイクル材の使用	-		3.0	0.20	-	-		
	2.4 車体材料以外におけるリサイクル材の使用		3.0	0.20	-	-		
	2.5 持続可能な森林から産出された木材		3.0	0.10	-	-		
	2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		4.0	0.20	-	-		
	仕上げ材の下地に軽量鉄骨を使用。		3.0	0.20	-	-	3.0	
	3 汚染物質含有材料の使用回避		3.0	0.30	-	-		
	3.1 有害物質を含まない材料の使用		3.0	0.30	-	-		
LR3 敷地外環境	3.2 フロン・ハロンの回避		3.0	0.70	-	-		
	1 消火剤		-	-	-	-		
	2 発泡剤(断熱材等)		3.0	0.50	-	-		
	3 冷媒		3.0	0.50	-	-		
	1 地球温暖化への配慮		-	0.30	-	-	3.5	
	2 地域環境への配慮		4.1	0.33	-	-	4.1	
	2.1 大気汚染防止		3.1	0.33	-	-	3.1	
2.2 温熱環境悪化の改善	CO2排出率: 72%		3.0	0.25	-	-		
	2.3 地域インフラへの負荷抑制		3.0	0.50	-	-		
	1 雨水排水負荷低減		3.5	0.25	-	-		
	2 污水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-		
	3 交通負荷抑制		3.0	0.25	-	-		
	4 廃棄物処理負荷抑制		5.0	0.25	-	-		
	3 周辺環境への配慮		3.0	0.25	-	-		
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.2	0.33	-	-	3.2	
	1 騒音		3.0	0.40	-	-		
	2 振動		3.0	0.33	-	-		
	3 悪臭		3.0	0.33	-	-		
	3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制		3.0	0.40	-	-		
	1 風害の抑制		3.0	0.70	-	-		
	2 砂塵の抑制		3.0	-	-	-		
3.3 光害の抑制	駐輪・駐車スペースを確保。		3.0	0.30	-	-		
	1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		4.4	0.20	-	-		
	2 曜光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		5.0	0.70	-	-		
	光害対策チェックリストは半分以上達成、広告物照明は不使用。		3.0	0.30	-	-		

CASBEE埼玉県 重点項目シート

■使用評価ソフトバージョン

CASBEE埼玉県2016年版

1 建物概要

建物名称

三井不動産ロジスティクスパーク

BEE

1.6

BEEランク

★★★★

2 重点項目の評価

ライフサイクルCO₂の削減のスコア 緑の保全・創出のスコア

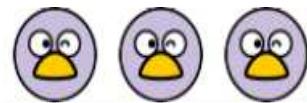
4.1

+

3.0

=

7.1



重点項目の各スコアの合計点

がんばろう
6.0未満



良い
6.0以上



非常によい
6.8以上



すばらしい
8.0以上



3 重点項目についての環境配慮概要

(1) ライフサイクルCO₂の削減

スコア平均 4.1

<CASBEE埼玉県の対応する配慮項目とスコア>

LR3 敷地外環境対策

1. 地球温暖化への配慮

スコア 4.1

CO₂排出率を減少することで、建物の低炭素化を図ります。

(2) 緑の保全・創出

スコア平均 3.0

<CASBEE埼玉県の対応する配慮項目とスコア>

Q3 室外環境(敷地内)

1. 生物環境の保全と創出

スコア 3.0

Q3 室外環境(敷地内)

3. 2 敷地内温熱環境の向上

スコア 3.0

LR3 敷地外環境

2. 2 温熱環境悪化の改善

スコア 3.0

緑地スペースを確保することで、豊かな環境を図ります。



: 入力欄